

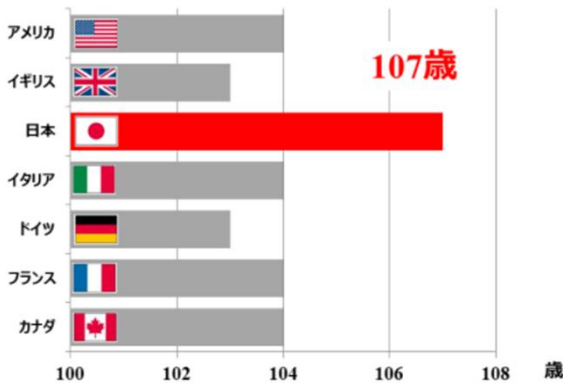
FP Topics = 人生100年時代を生き抜く = 2022年2月号

2月、如月は1年で一番寒い時期とされています。今年には本当に寒いですね。年齢を重ねると、より寒さを感じるようになるのでしょうか。

Topicsでは年金シリーズを継続しておりましたが、今月号から、年金の話題を受け“人生100年時代”について、様々な話題を特集してみたいと考えています。

= 人生100年時代 =

2007年生まれは、107歳まで生きる確率50%



(出典: Human Mortality Database, University of California, Berkley(USA), and Max Planck Institute for Demographic Research(Germany). Available at www.mortality.org)

統計はアメリカの大学とドイツの研究機関が調査したものです。2007年に生まれた子供、2人に1人は100歳を超えて生きよう。とりわけ日本人の長寿は際立って見えます。統計は中央値で計測されているようです。中央値とは、データのちょうど真ん中の値を取っています。5人中3番目の値ということです。3番目の人が107歳まで生きるということは、1、2番目の人はそれ以上長生きすることになります。現在の15歳は50%の確率で107歳まで生きると予測されているようです。



= 改めて人生における必要資金を考える =

おもなライフイベントにかかる費用						
就職活動費 9ヶ月〜1年程度、企業探し、面接料など 約10万円	結婚費用 結婚・婚約〜結婚後1年までに発生する費用(結婚費用+新婚費用) 約469万円	出産費用 出産費用(入院費)は約10万円、産後ケア費用(産後ケアセンター利用)は約10万円、産後ケア費用(産後ケアセンター利用)は約10万円 約52万円	教育資金 学費(私立)は約1,002万円 伊予上入学金(私立)は約1,002万円 伊予上入学金(公立)は約1,002万円	住宅購入費 住宅の平均購入価格 約3,494万円 住宅ローン返済額 約4,521万円	老後の生活費 中央値(平均)は約36万円/月 高齢無職世帯の平均 約26万円/月	介護費用 介護保険料(標準)は約17万円/月 介護費用(標準)は約17万円/月

緊急資金 生活費の3か月分〜1年分 出典：日本FP協会 「くらしとお金のワークブック」

日本FP協会による統計では、人生における3大資金《教育資金》《住宅資金》《老後資金》は上記のような数字になっています。

【教育資金】

約1,002万円となっています。この数字は幼稚園から高校までは公立学校、大学は私立の文系の場合を想定しています。

【住宅資金】

住宅購入資金は戸建住宅で約3,500万円。マンションで約4,500万円となっているようです。戸建住宅とマンションでは約1,000万円の開きがあります。これはマンション人気を如実に表しています。

【老後資金】

老後の生活費として、ゆとりのある生活を想定して月額36万円。高齢無職世帯を想定して月額26万円としています。

人生における3大資金の“平均値”は上記のようですが、もちろん都心部と地方では大きな差はあるようです。お子さんの有無で教育資金の必要性は問われますが、住宅資金と老後資金は誰もが直面する問題となります。住宅の購入vs賃貸は永遠の課題ですが、必ずどこかに住む必要はあります。老後資金についてはそれぞれ一概に語れないところです。老後2,000万円問題もありましたが、それぞれの老後を想定して考えなければならないことは確かですね。

約8か月にわたって公的年金の概要を特集してきましたが、私的にも公的年金は複雑怪奇で理解が難しい制度といわざるを得ません。

少子高齢化による逆ピラミッド型の人口形態では、公的年金制度を支えることは難しくなってきます。

度々の改正等により不利益を被らないよう自衛努力する必要もありそうです。自身の公的年金からの受給予測等について、ある程度把握しておくべきと考えます。

公的年金制度だけでは、老後十分な収入が得られないと予測される場合、なにかしら対策を考える必要があります。現実的な対策としては、できるだけ長く働くことではないでしょうか。

リタイアメントプランニング（老後資金）相談でキャッシュフロー表を作成する場合。リタイア後、月収10万円で10年間働くプランを提案すると、驚くほどキャッシュフロー表が改善されることがあります。

$$100,000円 \times 12か月 \times 10年 = 12,000,000円$$

人生100年時代の60歳～70歳はまだまだ若く、現役といっても過言ではないように思えます。

自分の好きなこと得意なことを活かして、セカンドライフを楽しめるよう、準備するのも一つの方法ではないでしょうか。

=お金にも働いてもらう=

そうはいっても、この低賃金の世の中。インフレの足音も少しずつ聞こえてきている昨今。一生懸命働いても一向に余裕が出ない、というのが本当のところかもしれません。独身の場合1馬力、結婚されている場合は2馬力で働けることもあるかもしれません。これをもう1馬力働き手を増やす方法もあります。お金にも働いてもらうということです。

資産運用というと、私たち日本人は身構えてしまうところがあります。私たちは投資ではなく投機をイメージしてしまうようです。毎日スクリーンに張り付いて、金融商品を売ったり買ったりすることをイメージされるようですが、それは投機です。

来月から、お金にも働いてもらうという内容を集めていきたいと考えています。人生100年時代を生き抜くためには大変重要なことだと考えています。

緊張が解け、ふと我に返ると荘厳な空間に佇んでいました。いつの間にか小雨になっていて、その空間にはやわらかい光が差し込んでいるようです。

雨粒が光を乱反射して、そこいら中が光り輝いて見えました。

清冽な空気のなか、ゆっくりと歩を進めますが、入ってはいけない空間に足を踏み入れてしまっているような気がしました。そわそわしながら辺りをうかがいますが、静寂のなか自分の気配だけがすべてです。

その空間は、まさしく“祈りの場”だと直感しました。岩窟は洞穴ではなく、天井がない岩窟になっており、そこに足を踏み入れることはできませんでした。約1,300年にも及ぶ人々の祈り（気）に圧倒され、あまりにも恐れ多く、まだ死んでいないことに感謝し無事帰れるよう祈りました。

さぁー、先を急ごう！と歩き出しましたが、遠くに何やら建物が見えます。建物の方へ歩いてゆくと、それは山上ヶ岳の宿坊群です。ほっとしたのと同時にがっかりもしました。私は裏行場を徘徊していたらしいのです。

気を取り直して、再び大峯山寺の山門をくぐり、もと居た場所に戻ったのです。雨が小ぶりのうちに、できるだけ距離を稼ぎたいところです。もう一度地図で方角を確認すると、正解は遠目に行き止まりとなっている方向のようです。

歩いて行ってみると先に道が通じていました。なぜこんな簡単なことを怠っていたのか、なぜ実際に確認しなかったのか、今となっては不思議でなりません。地図上の進行方向に進むということ・・・

目の前がばぁーと明るくなった気がして、元気よく歩き出しましたが、その道はこれまで見たこともないような、それはもう美しい森に見えました。命からがら脱出できた思いからなのか、何度も立ち止まり見入ってしまいました。

しばらく歩くと、荘厳な雰囲気をつらぬいた66番目の摩“小篠の宿”にたどり着きました。神聖な祈りの空間です。時間を確認すると15時過ぎ、幕営するか先に進むか、かなり迷いましたが、先へ進むことにしたのです。もっと酷い目に遭うことも知らずに・・・